

第7章 呑川の橋

1. 呑川の橋の概要

「橋」の字義を国語辞典で調べると、「橋梁の他にかけわたすもの、仲介、媒介」とあり、また「道路・鉄道・水路などを、川や谷また他の交通路の上などに通す際その通路としてかける構築物、橋梁」と説明されています。因みに橋の語源は「わたす」からきているそうです。

呑川の橋ですが、呑川の水源地が世田谷区新町一丁目 41 番地から始まり、途中、**駒沢支流、柿の木坂支流、九品仏川（丑川（うしかわ）と呼称していた時あり）**その他の流れ、周辺の湧水等を合流し、目黒区、大田区を流れ**海老取運河**で東京湾に流れており、当然途中多くの橋が架かっています。

しかし、現在 世田谷区、目黒区内は暗渠化し、緑道となっているところが多く、川の流れが見えません。（世田谷区には、上流部の 870m間に水の流れが見える「**呑川親水公園**」があります）

緑道には昔の橋の遺構がありますが、ほとんど橋そのものはありません。

現在、川の流れが見えるのは、東急目黒線を越えた**工大橋**のところからで、その後の大田区は開渠となっており、橋が架かっているのが見えます。工大橋から河口に向かう大田区の**約 9.5km 間には 65 の橋**（4本の歩道橋、鉄道陸橋は除く）が架かっています。9.5kmの距離しかないのに、他の川と違い流域人口が多く、橋数が多いのがこの川の大きな特長の一つと言えます。

その橋には「橋の名の標記プレート」である**橋名板**（きょうめいばん）・**橋銘板**・**橋歴板**（きょうれきばん）が「漢字」と「ひらがな」で書いてあります。（最初の工大橋、一本橋には標識プレートはありません）また、橋が出来た年の標記プレートがついている橋もあります。

一つ一つの橋の名を確認しながら、散策すると興味が湧いてきます。例えば、

(1) この橋の名前はどのようにつけられたのか(①～⑦)？

①字名からつけられたもの

- ・石川橋・山谷橋・・・1886（明治 19）年 1 月の調査で、雪ヶ谷村には地籍による字として、**石川**（旧字石川川境向山下）がある。その他 山谷、居村等もあります。

②神社仏閣からとった名

- ・宮前橋・水神橋・稲荷橋・霊山橋・妙見橋・養源寺橋・若宮橋・八幡橋・天神橋等

④歴史上の人物からとった名

- ・日蓮橋・・・日蓮聖人（池上本門寺）
- ・弾正橋・・・北条氏領主 行方弾正（円頓寺にお墓がある）

⑤両地区の地名をつなぎ合わせた名

- ・久根橋・・・右岸・久が原と左岸・根方の頭文字をとり、合わせた。

⑥二流に架かった橋名

- ・双流橋・夫婦橋・・・呑川と分れた六郷用水の流れに架かっている橋

⑦人名からとった橋名

- ・藤兵衛橋・・・藤兵衛堀を造った伊藤藤兵衛からとった

(2) 時代や地域により橋の呼び名が異なっています。 何故か？

「道々橋」という橋がありますが、地元の方は「どどばし」と呼んでいるのにプレート名には「どうどうばし」となっています。 何故か？理由は不明です。

※参考までに「呑川」は、昔 地域・時代によって「石川」「深沢川」「粘土川」「野見川」「野美川」「大川」「道々川」等と呼ばれていました。「新編武蔵風土記稿 荏原郡の七巻の45」にも、「石川」を「呑川」の別称とするとも書いてあります。

現在の正式名称は「東京都指定二級河川・呑川水系本流・呑川」です。

また区でも、以前は「のみがわ=NOMIGAWA」と読んでいましたが、平成時代の

初

期頃から「のみかわ=NOMIKAWA」と読むようになりました。

しかし、地元の地域の方は依然として「のみがわ」と呼んでいます。

(3) 橋の長さ？

・清水橋 31.0m ・弾正橋 30.7m ・夫婦橋 23.3m ・池上橋 18.054m

・一ノ橋 9.8m ・三十八号人道橋 9.9m ・本村橋 10.2m等です。

(※ 昔の方は 「長い木の橋=ながい きのはし」を「長生きの橋=ながいきの はし」と言っ

て縁起を担ぎ、長い橋を渡っていたそうです。)

(4) 近辺の方は「一本橋」と呼んでいます。正式名は「三十八号橋」人道橋です。



石川台中学校の手前の石川公園（右岸）の近くにある人道橋。左の写真は昭和 20 年代初期に撮影されたもので、一枚の大きな板を川に架け、ただ人だけが渡る橋でした。当時から一本橋と呼ばれていました。現在の橋は 1951（昭和 27）年に出来た鉄筋コンクリート製で 橋長 9.9m、有効幅長 1.6mの橋ですが、橋名のプレートはありません。この辺の方は今でも人道橋と呼んでいます。

* コラム 「呑川緑道 プロムナード」

大田区内には川に沿って橋の近くに下記のような「呑川緑道 プロムナード」という緑色の案内プレートが立っています。それには「海拔」とか「河口からの距離」「最寄り駅名と距離」が書かれています。これを見ながら散策しても新しい知識が増えると思います。

・【看板例】

呑川緑道	Nomikawa Ryokudo Promenade	
海 抜	Above Sea Level	例 19.4m
河口から	From the estuary	例 9.5km

第7章 2. 呑川に架かる橋名の由来

東急大井町線・目黒線

- ・工大橋（こうだいばし） 大岡山2-11～緑が丘3-4
東京工業大学に接しているから。
- ・境 橋（さかいばし） 石川町1-25～緑が丘3-9
大田区と目黒区の境
- ・島畑橋（しまはたばし） 石川町1-12～緑が丘3-11
字名⑥ 昭和50（1975）年完成。以前は石川村と衾村を結ぶ島谷橋と言われていましたが、大正6（1917）年大洪水があり、石橋にして再構築しました。石川橋とも地図にあります。
- ・三十八号（一本橋） 石川町2-12～石川町2-19
昔の橋は昭和27（1951）年に1枚の平らで大きな角材で柵がない一本橋でした。現在は人のみ通行可能で、行政の整理番号名。
- ・島本橋（しまもとばし） 石川町2-10～石川町2-23
不明
- ・柳 橋（やなぎはし） 石川町2-8～石川町2-28
この橋の左岸たもとに、大きくきれいな柳の木があります。

中原街道

- ・石川橋（いしかわばし） 石川町2-8～石川町2-29
中原街道に古くから架けられていた橋で、字名④からと推定されますが、はっきりしたことは不明。橋のたもとに石橋供養塔があり、碑文から安永3（1774）石橋が架設されたとわかります。

池上線高架橋

- ・一ノ橋（いちのはし） 東雪谷2-10～南雪谷1-1
中原街道から下流一番目の橋だから。一之橋は両国近くで隅田川に流れ込む堅川の隅田川から一番目の橋や、港区古川に架かる古川橋下流の一之橋から四之橋まであり、内川にもあります。
- ・二之橋（にのはし） 東雪谷2-11～南雪谷1-16
同じく中原街道から下流二番目の橋です。
- ・宮前橋（みやまえばし） 東雪谷2-15～南雪谷1-18
左手の先に雪谷八幡神社があります。
- ・山下橋（やましたばし） 東雪谷2-17～南雪谷1-20
大正末期の耕地整理事業による改修工事以前、呑川は日下山の直下を流れていて明治44年の地図に、その辺りに橋が記入されていて、その橋は山下橋と呼ばれていました。
- ・西の橋（にしのはし） 東雪谷3-32～南雪谷3-1
字名⑥。 左岸に雪見橋があります。
- ・雪の橋（ゆきのはし） 東雪谷3-29～南雪谷3-9
不明
- ・居村橋（いむらばし） 東雪谷3-27～南雪谷3-10
字名⑥
- ・円長寺橋（えんちょうじはし） 東雪谷3-25～南雪谷3-22

右手の道を行くと円長寺があります。明治 44 (1911) 年の地図にも圓長寺の先に橋が見えます。

- ・鶴の橋 (つるのはし) 東雪谷 5 - 28 ~ 南雪谷 5 - 1
不明
- ・水神橋 (すいじんばし) 東雪谷 5 - 29 ~ 南雪谷 5 - 1
右手 300M 先に水神の森と呼ばれた湧水源と水神神社がありました。現在、神社は雪が谷八幡に移
築されています。
- ・鷹の橋 (たかのはし) 東雪谷 5 - 32 ~ 南雪谷 5 - 14
不明
- ・谷中橋 (やなかばし) 東雪谷 5 - 33 ~ 南雪谷 5 - 16
字名⑥
- ・東 橋 (あずまばし) 東雪谷 5 - 36 ~ 南雪谷 5 - 20
字名⑥
- ・境 橋 (さかいばし) 東雪谷 5 - 39 ~ 南雪谷 5 - 21
雪が谷村と道々橋村の境にあります。

新幹線・横須賀線 鉄橋

- ・芹ヶ谷橋 (せりがやばし) 仲池上 1 - 33 ~ 久が原 1 - 2
字名⑥
- ・本村橋 (ほんむらばし) 仲池上 1 - 32 ~ 久が原 1 - 3
字名⑥
- ・道々橋 (どうどうばし) (歩道橋どどばし) 仲池上 1 - 30 ~ 久が原 1 - 4
池上町史② (1931 年編纂) の「大字道々橋」の項の冒頭に「本村は元池上村の一部なりしも、寛政 (1789 ~ 1800) 以前已に分離して現在の一村をなせりと。伝説によれば、池上より本村に通ずる途中呑川の流れありて橋梁を架す。此の橋梁修繕に際し負担の関係より池上村と紛擾 (フソウ) を起し遂に独立して一村をなしたるよりドドの詰り橋の問題より独立せし為ドド橋、即ち道々橋と称する」と記載していますが、それから「ドウドウ」とするのは無理とも考えられます。世田谷区の等々力と同じように、橋名は、一帯に響いていた洗足流れの「ドウ、ドウ」という水音に基づいて名付けられました。日本の各地に百々どうどう (南アルプス市)、百々川橋どどがわ (鈴鹿市) があり、擬音語を地名にしている (東京の地名・筒井功)。昭和 45 年 (1970) 迄、江戸期の道々橋村の名を継ぐ道々橋町がありましたが、仲池上などに編入されて消滅しました。
- ・久根橋 (ひさねばし) 仲池上 1 - 27 ~ 久が原 2 - 2
池上町史および土木概要 1962 には該当する橋はなく、土木概要 1970 には 1964.3 架設とあり、従ってはっきりした資料はないが久が原と根方の間で久根橋としたという話があります。
- ・八幡橋 (はちまんはし) 仲池上 2 - 25 ~ 久が原 2 - 3
右手の先に「久が原東部八幡神社」があります。
- ・仲之橋 (なかのはし) 仲池上 2 - 26 ~ 久が原 2 - 12
字名⑤
- ・根方橋 (ねかたばし) 仲池上 2 - 27 ~ 久が原 2 - 13
字名⑥。新幹線が西馬込の切り通しを通過する上に架かる橋は「新根方橋」とあります。
- ・長栄橋 (ちょうえいばし) 仲池上 2 - 28 ~ 久が原 2 - 22
本門寺は長栄山本門寺といい、その本門寺へ行く道に架かる橋なので長栄橋としたか？

明治 14 年の地図に長栄橋と考えられそうな橋があり、付近の字名長栄からとの説もあります。

- ・北の橋（きたのはし） 仲池上 2 - 29～久が原 2 - 23
左岸一帯を北野町⑤と言っていました。

第二京浜国道

- ・池上橋（いけがみはし） 仲池上 2 - 30～久が原 5 - 14
戦争中飛行機の滑走路も兼ねられるとして、国により建設された第二京浜国道が呑川に架かる地点は池上なので池上橋にしたのでしょうか。
- ・久崎橋（ひさざきばし） 池上 2 - 7～池上 3 - 2
右岸先に久崎⑤という字があります
- ・谷築橋（やちくばし） 池上 2 - 16～池上 3 - 9
字名⑤
- ・鶴林橋（かくりんばし） 池上 2 - 21～3 - 11 13.8m
1927 年の架設当時は南橋と呼ばれて付近の字名に南⑤があります。1962.3 の大田区土木概要③ではまだ南橋とよばれていましたが、土木概要 1970④では鶴林橋になって、架設時期は 1966.3.30 で、その時に鶴林橋と変更されたと思われませんが、何故変更されたかは不明。なお鶴林とは広辞苑によれば「（釈迦入滅を悲しみ、沙羅双樹が鶴の羽のように白く変わって枯死したという伝説に基づく）沙羅双樹林の異称。転じて釈尊の死、すなわち仏涅槃（ぶつねはん）。」とあります。
- ・稲荷橋（いなりばし） 池上 2 - 22～池上 4 - 21
左手の先、本門寺の麓に稲荷社⑨があります。
- ・霊山橋（りょうぜんばし） 池上 1 - 35～池上 4 - 19
日蓮宗の中心的な経典である法華経を、釈迦はインドの実際にある霊鷲山（リョウジュン）で説いたとされ、それを略して霊山（リョウゼン）が生まれ、池上本門寺が建立された時から呑川を渡らなければ参拝できず、呑川に架かるこの橋を結界として釈迦の説く法華経の世界に入って欲しいということから、霊山橋と命名されたと思われます。「江戸名所図会」にも霊山橋と呑川が描かれています。
- ・妙見橋（みょうけんばし） 池上 1 - 33～4 - 10 12.2m
左手奥の妙見坂を上ると、本門寺の一堂・妙見堂があります。
- ・養源寺橋（ようげんじはし） 池上 1 - 31～池上 4 - 9
橋の前には養源寺があります。
- ・浄国橋（じょうこくばし） 池上 1 - 30～池上 4 - 1
新編武蔵風土記稿にも記載され、「その名義のゆへあるべきに似たれども、今伝を伝えず」と。また平間街道に架かるので破損の時は公より修理ありといい、高札場もあり、幕府にとっても重要な橋だったのでしょう。なお横溝 洋 「私的空間 池上村」（築地書館）には浄国橋「角に角源という材木店があった。橋の北側にバラ新がある。戦前から美しいバラを商っている。かつての浄国寺の跡であるという」（六郷用水と平間街道沿い）とあり、それに由来するとも思われます。

池上通り

- ・堤方橋（つつみかたはし） 池上 1 - 25～池上 5 - 1
堤方橋は池上通りが開通したとき昭和 12（1937）年に架設されました。新編武蔵風土記稿には堤方村があり、この一帯の字名は堤方です。

- ・一本橋（いっぽんばし） 中央 8 - 2 ~ 池上 5 - 26
以前、本門寺から切り倒した 2 本の丸太を組合わせて一本にし、呑川に架けたからと言われます。
- ・上堰橋（じょうせきばし） 中央 8 - 5 ~ 西蒲田 1 - 10
上堰橋は昭和初期までの地形図では確認できないが、昭和 11（1936）年の「大森区詳細図」以降の地図には登場するのでその間にできたのでしょうか、上堰橋の名称から近くに堰があったと思われますが地元の人に聞いても堰のことを知っている人には会えなかった、と「かまにし」にあります。
- ・日蓮橋（にちれんばし） 中央 8 - 9 ~ 西蒲田 1 - 8
左岸、池上第二小学校近くに妙法寺⑨という日蓮宗の寺が戦前迄あったので、名付けられたとも言われます。昭和 10 年代から平成の半ばまで、橋のそばに「日蓮湯」という銭湯もありました。
- ・若宮橋（わかみやばし） 中央 8 - 16 ~ 西蒲田 1 - 5
新編武蔵風土記稿の堤方村の項に「若宮八幡社」が村の南にあり、とあります。
- ・双流橋（そうりゅうばし） 中央 8 - 23 ~ 西蒲田 1 - 4
この双流橋から上流の上堰橋にかけて、呑川の中に大森方面に分流するため約 400m にわたり中土手があり、2 つの流れがありました。双流橋の先で呑川本流は大きく南（右）に曲り、一方大森方面の流れは直進して、現在の道路からはっきり読み取れます。
- ・大平橋（たいへいはし） 西蒲田 1 - 2 ~ 西蒲田 4 - 4
「かまにし」⑤に大正期の付近の地名は大宇蒲田字大平耕地と言ったとあります。
- ・山野橋（さんやばし） 西蒲田 4 - 16 ~ 西蒲田 4 - 20
「かまにし」⑤によれば明治 14（1881）年の測量図で確認でき、山野は西蒲田四丁目の古い地名とあります。
- ・馬引橋（うまひきばし） 西蒲田 4 - 19 ~ 西蒲田 5 - 1
「かまにし」によれば、「明治 39（1906）年の地形図でこの位置に確認でき、古くから農産物の運搬に使われ荷駄の往来もあったことから名付けられたのでしょう」とあります。

JR 東海道線・京浜東北線 鉄橋

- ・宮之橋（みやのはし） 蒲田 1 - 28 ~ 蒲田 5 - 3
不明
- ・御成橋（おなりばし） 蒲田 1 - 29 ~ 蒲田 5 - 6
御成とは普通將軍の来ることをいいますが、平川文書によると近くに、江戸時代に御鷹場利用で架けられた神戸橋が旧呑川に架かっています。
- ・菖蒲橋（あやめばし） 蒲田 1 - 30 ~ 蒲田 5 - 27
この橋の左岸の蒲田小学校の所と、右岸にも菖蒲園があり、東京の名所になっていました。
- ・仲之橋（なかのはし） 蒲田 1 - 18 ~ 蒲田 4 - 1
付近は仲蒲田です。
- ・柳 橋（やなぎはし） 蒲田 3 - 19 ~ 蒲田 4 - 3
神田川が隅田川に入る直前に架かる「柳橋」の北側は台東区柳橋。この付近は江戸時代から花街・享楽街で有名です。そこでこの呑川に架かる「柳橋」も昭和 30 年代初めに架けられた時には、右岸に柳があり、周辺は飲み屋街になっており、柳通がありました。
- ・弾正橋（だんじょうばし） 蒲田 3 - 22 ~ 蒲田 4 - 10
この橋の左先方に後北条氏の有力家臣だった行方弾正（ナカダツヅヨウ）の屋敷がありました。弾正の討ち死に後、その跡地に円頓寺が建立され弾正の墓・供養塔が建てられています。

京浜急行線 高架

- ・夫婦橋（めおとはし） 東蒲田 2 - 30 ~ 南蒲田 1 - 1

記稿の蒲田・新宿村の項には「夫婦橋 呑川に架す、海道の内にて、北蒲田の境にあり、長さ七間幅三尺（まま）」とあり、北蒲田村の項には「女夫橋 当村と新宿村との界にある用水堀に架す、長さ七間、幅三間」とあります。また東海道分間延絵図^⑫によると夫婦橋があったと思われる場所に少し離れているが橋が二つ書かれています。また大正期の大田区地図 蒲田（3000 分の 1）では二つの橋が 10m ぐらい離れて架かっています。しかも元々の呑川の水がこの夫婦橋のすぐ上流の堰で二分され一方が呑川本流で他方を松葉用水に分流させていたことを考えれば、住民はその二つの橋を一緒にして夫婦橋と呼んでいました。

- ・天神橋（てんじんはし） 東蒲田 2 - 35～南蒲田 1 - 7
この橋の右岸に北野神社があります。北野神社は天神様・菅原道真を祀っています。
- ・清水橋（しみずはし） 東蒲田 2 - 37～西糀谷 1 - 1
不明
- ・宝来橋（ほうらいはし） 東蒲田 2 - 38～西糀谷 1 - 4
大田区議会通史編によれば 1963（昭和 38）年当時、糀谷の糀が当用漢字になく住居表示で糀谷の地名を宝来に変更してはという提案が区側からされたが、住民の反対で撤回されたとあります。なぜ宝来かの理由は不明で資料^⑨によれば、わからないが昭和 28（1947）年新呑川に宝来橋が架かっていて、「宝が来る」なんて縁起がいい名前だからという感じだったのでしょかと記しています。
- ・北糀谷橋（きたこうじやはし） 北糀谷 2 - 12～西糀谷 2 - 1
この辺り地名は北糀谷です。
- ・八幡橋（はちまんばし） 北糀谷 1 - 22～西糀谷 2 - 5
左岸に子安八幡神社があります。

産業道路

- ・呑川新橋（のみかわしんばし） 北糀谷 1 - 19～東糀谷 1 - 1
この橋は産業道路に架かりますが、旧呑川に架かる呑川橋があったので呑川新橋としました。
- ・東 橋（あずまはし） 大森南 1 - 23～東糀谷 1 - 3
東が字名^⑥
- ・末広橋（すえひろばし） 大森南 2 - 19～東糀谷 1 - 6 29.1m
この付近に末広耕地^⑥があります。
- ・藤兵衛橋（とうべいはし） 大森南 2 - 21～東糀谷 5 - 1
現在の呑川がこの辺りに開削される以前は、この辺りは江戸時代に伊藤藤兵衛が開削した藤兵衛堀がありました。
- ・旭 橋（あさひばし） 大森南 2 - 25～東糀谷 6 - 1 28.5m
この呑川最下流の旭橋は、昭和 10 年「藤兵衛堀」を延長する形で開削された新呑川に架設されました。北前堀と南前堀の間に大正期に現旭橋の右手に「旭」「旭耕地」の字名があります。

旧呑川の橋

- ・神戸橋（こうどばし） 東蒲田 2 - 38～北糀谷 2 - 15
享保 8 年（1723）御鷹場御用で架けられた橋（平川文書）。
蒲田にある稗田神社の神戸と言われる人々がこの辺りに住んでいたから。神戸（かんべ）とは寺社に属して、租・庸・調や雑役を寺社に収めた民戸のことを言います。
- ・不帰橋（きらずばし） 大森中 3 - 33～北糀谷 2 - 9

糶谷（下袋村）からこの橋を渡るとなかなか帰ってこられない、村から奉公に出ると帰れない人が多かった。この橋の先には楽しい所が色々あり、なかなか帰らなかったなどと言われています。

豆腐の「おから」を別名 {きらず} といい、橋の近くに豆腐屋があったからという人もいました。

- ・鷹之橋（たかのはし） 大森中3-20～北糶谷1-6
不明。橋の近くに「鷹の滞」と呼ばれる小さな流れがあり、橋名になったという説もあります。
- ・昭和橋（しょうわばし） 大森中3-8～北糶谷1-1
昭和年代に入り架けられた橋なので、昭和橋と付けられたと思います。
- ・川下橋（かわしもばし） 大森東4-38～大森南1-1
産業道路が完成した時に架けられた橋。由来は不明。
この橋が出来たことにより、近くの彌五右衛門橋は無くなりました。
- ・呑川橋（のみがわばし） 大森東4-40～大森南1-6
座頭川に架けられた座頭橋が、「羽田道」と呼ばれた古街道に架かる橋で、賑わっていましたが、元
禄15年（1702）の大地震により、座頭川に呑川が流れ込み呑川になり、明治の初めころまでは座
頭橋と言われたようですが、呑川に架かる橋なので、呑川橋と名付けられたと思います。
- ・潮見橋（しおみばし） 大森東5-36～大森南3-5
由来は不明。昭和8年（1933）に出来た橋。大森第四小学校が創設され、大森東の学童が呑川橋
を渡って通学するのは不便なので、地元の人たちの努力でできた橋です。
なお、この旧呑川の沿岸は海苔漁業の人々の重要な基地でもあり、造る時海苔船が通れる
ような太
鼓橋にし、人とリヤカーの専用橋であった。このように海苔船と橋の関係を見ると、潮の
満ち干を
見ながら通過したので、潮見橋と付けたとも考えられます。

以上

* 記載要領

1. 記載範囲は工大橋下流の大田区部分とし、源流から工大橋までの世田谷区・目黒区部分は触れていません。
2. 橋の建設・架設時期は「7章(2) 橋の構造 その特徴」で記載しています。
3. 橋名の振り仮名は橋柱に記しているもので、現在の呑川の会会員が通常使用のものとは限りません。
4. 本文は本誌編集委員会（福井・高橋・白石・菱沼・古海・橋本）の検討結果によります。

* 参考資料

- | | | | |
|-----------------|-----------------------|------------------------|----|
| 1. 新編武蔵風土記稿 | 江戸幕府 | 1830 | ① |
| 2. 池上町史 | 池上町 | 1931 | ② |
| 3. 大田区土木概要 改訂版 | 大田区土木課 | 1962.3 | ③ |
| 4. 土木概要 | | 1970 | ④ |
| 5. かまにし 46号 | 地域力推進蒲田西地区委員会発行 | 2012.12.1 | ⑤ |
| 6. 大田区の文化財 地図編1 | 東京市編入頃の池上町（雪谷地区・池上地区） | | ⑥⑦ |
| 7. 同上 | 同上 | 東京市編入頃の羽田町（糶谷・萩中・羽田地区） | ⑧⑨ |

8.	同上	同上	昭和前期の大田区（1：3000 地形図）	池上	⑩
9.	同上	同上	大正期の地図		⑪
10.	同上	同上	東海道分間延絵図		⑫
11.	糞谷ってどんなまち？歴史があるんだよ 昭和糞谷の歴史文化の会 2016. 3. 25				⑬
12.	呑川は流れる		大田区教育委員会 1966. 3		⑭

第7章 呑川の橋

3. 旧呑川に架かる橋

・神戸橋(こうどばし)

享保 8(1723)年、御鷹場御用で架けられた橋(平川文書)。蒲田にある稗田神社の神戸と言われる人々がこの辺りに住んでいたから。「神戸(かんべ)」とは寺社に属して、租・庸・調や雑役を寺社に収めた民戸のこと。

・不帰橋(きらずばし)

糞谷(下袋村)からこの橋を渡るとなかなか帰ってこられない、村から奉公に出ると帰れない人が多かったとか、この橋の先には楽しい所が色々あり、なかなか帰らなかつたなどと言われている。

また豆腐の「おから」を別名{きらず}ということから、この橋の近くに豆腐屋があつたからという人もいたそうです。

・鷹之橋(たかのはし)

由来は不明。この橋の近くに「鷹の滞」と呼ばれる小さな流れがあり、それが橋名になったという人もいました。

・昭和橋(しょうわばし)

昭和年代に入り架けられた橋なので、昭和橋と付けられたのではないのでしょうか(?)。

・彌五右衛門橋(やごえもんばし)

呑川の対岸に自分の畑があり、座頭橋まで行くのは大変だということで。彌五右衛門さんが畑に通うため自分で最初に架けた橋と言われています。

・川下橋(かわしもばし)

産業道路が完成した時に架けられた橋。由来は不明。

この橋が出来たことにより、近くの彌五右衛門橋は無くなりました。

・座頭橋(ざとうばし)

座頭川に架けられた橋でこの名がつけられました。その後元禄 15(1702)年の大地震により、この座頭川に呑川が流れ込み呑川となりましたが、この橋は座頭橋と呼ばれていました。伊能忠敬が日本地図を作る時のメモにザトウバシという名前が出てきます。明治時代の始め頃まではこの名で呼ばれていたと思われます。この橋の道は「羽田道」とも呼ばれ古街道の一つです。江戸時代には羽田の海産物を江戸に運ぶ道として賑わっていたと言われています。座頭川の由来は、この辺りに座頭(按摩さんの位)が住んでいたとか、この川に落ちてなくなったからとも言われています。

・呑川橋(のみがわばし)

呑川に架かっていた橋だから、名付けられたものと思われます。

いつ座頭橋から呑川橋に変わったかは不明。

・潮見橋(しおみばし)

由来は不明。昭和8(1933)年に出来た橋。大森第四小学校が創設され、大森東の学童が呑川橋を渡って通学するのは不便なので、地元の人たちの努力で出来た橋です。

なお、この旧呑川の沿岸は海苔漁業の人々の重要な基地でもあり、作る時海苔船が通れるような太鼓橋にし、人とリヤカーの専用橋でありました。

このように海苔船と橋の関係を見ると、潮の満ち干を見ながら通過したので、潮見橋と付けたとも考えられます。

4. 世田谷区・目黒区呑川本流、支流（（駒沢・柿の木坂支流）九品仏川）の橋名

- ① 世田谷区の最上流・源流地点（世田谷区新町一丁目41番地）から目黒区最下流の境橋（緑ヶ丘三丁目9、石川町一丁目）にあった「橋の名」を記載しました。
- ② 世田谷区・目黒区の呑川本流は現在ほとんど暗渠になっているため、橋は現存していません。古い地図、測量図、資料、本等に橋名の記載あるもの、橋名版の遺構があるものを記載しました。
- ③ 新町分譲地の造成、耕地整理、土地区割整理、関東大震災、戦争、暗渠化等により、廃橋となった橋もあるようです。又以前は蛇行していた川が直線的な川に改修された為 場所が変更された橋もあるようです。

（1）呑川本流に架かっていた橋 世田谷区編

源流（暗渠）・・・世田谷区桜新町一丁目41及び世田谷区新町二丁目32-6等複数の水源から出た流れが、現在の国道246号線の手前で一筋の流れとなっています。

弁天橋（べんてんばし）・・・桜新町一丁目1・新町二丁目

正永橋（しょうえいばし）・・・新町二丁目・桜新町一丁目、大正6(1917)年の測図にあり。

新櫻橋（しんさくらばし）・・・深沢八丁目7、呑川（跡の水面あり）。玉川通り(国道246号)。鳥と犬のモニュメントがある**呑川親水公園の始点**。

稻荷橋（いなりはし）・・・新町一丁目28,29・深沢八丁目7付近、深沢高校。

西山橋（にしやまはし）・・・新町一丁目・深沢八丁目1付近。聖母教会の湧水池、深沢の杜。

御嶽橋（みたけはし）・・・深沢六丁目32・七丁目5付近、深沢高校。

伊勢橋（いせはし）・・・深沢六丁目29,31・七丁目2,5付近。茶色レンガ橋遺構。大正6(1917)の測図にあり。

三島橋（みしまはし）・・・深沢六丁目27・七丁目付近

呑川橋（のみかわはし）・・・深沢七丁目1・深沢五丁目9・六丁目。駒沢通り（都道416号）
医王寺・深沢不動。日体大付近。**呑川親水公園終点**。

「手づくり郷土（ふるさと）賞 平成六年七月」の記念碑あり。

宮前橋（みやまえはし）・・・深沢五丁目6・12付近、深沢神社湧水・三島公園池。

大橋（おおはし）・・・深沢五丁目3・4・5付近、駒沢公園通り。

深沢橋（ふかさわはし）・・・深沢四丁目33付近、駒沢公園通り。

中村橋（なかむらはし）・・・深沢四丁目18付近、東深沢中。

八幡橋（はちまんはし）・・・深沢四丁目18付近、大正6（1917）年の地図にあり。

新橋（しんはし）・・・深沢三丁目・四丁目20付近、学芸大附属小学校。

下山橋（志もやまはし）・・・深沢三丁目7・四丁目13、20付近 昭和十二年七月 竣功
建設当時の石 八差路の所にあり。東深沢小学校。

中の橋（なかのはし）・・・深沢三丁目付近、東深沢小学校。

原橋（はらはし）・・・深沢三丁目6・六丁目付近

神明橋（しんめいはし）・・・深沢三丁目5・深沢一丁目14 付近、駒八通り。バス通り。

桜橋（さくらはし）・・・深沢一丁目13付近

境橋（さかいはし）・・・深沢一丁目17・18付近

柳橋（やなぎはし）・・・深沢一丁目18・4付近

※ 呑川本流緑道の世田谷区と目黒区の区界の見分け方の一つとして、桜の木が緑道外に植栽されているのが世田谷区、緑道内に植栽されているのが目黒区。境界は目黒区八雲三丁目30（左岸）。

（2）呑川本流に架かっていた橋 目黒区編

西堺橋（にしさかいはし）・・・現存せず。 八雲三丁目31 付近

一つ木橋（ひとつぎはし）・・・現存せず。 八雲三丁目31 付近、宮前公園。

畑中橋（はたなかはし）・・・現存せず。 八雲三丁目13・14 付近、 宮前小学校、太鼓橋。

土呂橋（どろはし）・・・現存せず。 八雲三丁目8 付近、しどめ坂。

宮前橋（みやまえはし）・・・現存せず。 八雲三丁目9 付近。 自由通り（都道426号）。
宮前橋と川合橋の中間位、左岸に『呑川駒沢支流
緑道』があり。

川合橋（かわいはし）・・・現存せず。 八雲二丁目2-12 付近。

左方向 氷川神社。 右方向 氷川坂。

上石橋（かみいしばし）・・・現存せず。 平成15（2003）年の資料にはあるが、平成29（2017）年の資料にはない。

下石橋（しおいしばし）・・・現存せず。 平成15（2003）年の資料にはあるが、平成29（2017）年の資料にはない。

八雲橋（やぐもはし）・・・現存せず。 八雲一丁目11 付近。 駐輪場名あり。

三の橋（さんのはし）・・・現存せず。 八雲一丁目5・6 付近。 駐輪場名あり。

中根橋（なかねはし）・・・現存せず。 中根一丁目3 付近。目黒通り（都道312号）。
昭和初期の欄干あり（昭和十三年九月 竣工）。 駐輪場名あり。

旭橋（あさひはし）・・・現存せず。 左岸に『柿の木坂支流緑道方面』あり。

落合橋（おちあいはし）・・・現存せず。 柿の木坂支流。

関根橋（せきねはし）・・・現存せず。 平町一丁目27、中根二丁目13 付近。 駐輪場名あり。

呑川橋（のみがわはし）・・・現存せず。 平町一丁目27、中根二丁目13 付近。 駐輪場名あり。

り。『**呑川本流緑道距離表示図案内**』あり。左方向 都立大駅。
稲荷橋（いなりばし）・・・現存せず。平町二丁目 23，中根二丁目 13 付近。駐輪場名あり。
 左方向 桜森稲荷神社。
 右方向 キヤノン株式会社 Canon Global Management Institute
二ノ橋（にのはし）・・・現存せず。平町二丁目 23，中根二丁目 2・3 付近
 駐輪場名あり。（二の橋自転車置き場）
一之橋（いちのはし）・・・現存せず。平町二丁目 21，中根二丁目 3 付近
 「呑川本流緑道距離表示図」の案内版がある。
寺郷橋（てらごうばし）・・・現存せず。平町二丁目，中根二丁目 4 付近。右岸 中根公園。
中里橋（なかさとばし）・・・現存せず。平町二丁目 20，緑ヶ丘一丁目 1 付近。
 中根小学校の側。右方向 立源寺・岡田家長屋門あり。
 左方向 帝釈堂、鉄飛坂。
中之橋（なかのはし）・・・現存せず。大岡山一丁目 36、緑ヶ丘一丁目 4 付近。
二枚橋（にまいばし）・・・現存せず。大岡山一丁目、緑ヶ丘一丁目付近。
 目黒第十一中の側。右に行くと 6 差路あり。左方向 鶯坂。
 下流に向かい行くと左岸に目黒第十一中の運動場がある。

※ 目黒第十一中から緑道を下流に向かうと、左側に東工大の校舎が見え、陸上競技用トラックあり。

轟 橋（とどろき橋）・・・緑ヶ丘駅駐輪場を経て東工大内に入ると『轟橋』があり、そこを
 渡り約 50 m 行った左側の奥に呑川の水源の一つである『瓢箪池』
 がある。この池は淡水池でその水は呑川に流入していた。

※ 東急目黒線・大井町線の地下トンネル『呑川本流緑道工大橋通路』を潜ると『工大橋』に出ます。

工大橋（こうだいばし）・・・緑ヶ丘二丁目 12・緑ヶ丘三丁目 3 付近

九品仏川緑道合流地点・新宿落合水再生センター処理水流入地点。

【水神橋】（現存していない）・・・緑ヶ丘三丁目 3。九品仏川の最後の橋で、呑川本流への流
 入

地点。近くに 緑ヶ丘弁財天があった。その中に水神様を
 祀っていた水神塚があり、水神橋は そこから名づけられた
 と思われる。

境 橋（さかいばし）・・・石川町一丁目、緑ヶ丘三丁目 9。右岸に『東京都目黒区立街かど

公

園』と大きなクスノキが見える。この橋までが目黒区管内で、その後下流に向かい大田区管内の橋となる。

※ 次に**呑川本流**ではありませんが 参考までに『**呑川駒沢支流**』と『**柿の木坂支流**』

に架かっていた**橋**を書きます。

(3) 呑川駒沢支流に架かっていた橋

川の流れは現在の目黒区東が丘二丁目の**駒沢オリンピック公園（旧駒沢ゴルフ場）**から**縄文遺跡**（八雲五丁目）方面、やくも街角公園方面を過ぎ、自由通りを越え八雲二丁目方面に流れていました。八雲二丁目に町名が変わって最初の四つ角の所から次の橋が架かっていました。

大原橋（おおはらばし）・・・現存せず。八雲五丁目14・16付近。

衾橋（ふすまばし）・・・現存せず。衾村（現在の柿の木坂・東が丘・八雲・平町・中根・緑ヶ丘・自由が丘・大岡山）

水窪橋（みずくぼばし）・・・現存せず。八雲二丁目16付近

宮ヶ原橋（みやがはらばし）・・・現存せず。

上園橋（かみぞのばし）・・・現存せず。金蔵院、氷川神社。八雲二丁目15付近

学園橋（がくえんばし）・・・現存せず。八雲学院。八雲二丁目14・23付近

中宮橋（ちゅうぐうばし）・・・現存せず。いずれも八雲二丁目に流れていた。

※ **駒沢支流**は最後の中宮橋を過ぎて 八雲二丁目19付近で<**呑川本流**>に流入していました。

(4) 柿の木坂支流に架かっていた橋

柿の木坂支流（芳窪川）の目黒区内最初の西上橋上流は、暗渠で**世田谷区上馬三丁目2**に突当ります。上馬交差点近くに宋円寺があります。

西上橋（にしがみばし）・・・現存せず。東が丘一丁目36-6付近

上芳窪橋（かみよしくぼばし）・・・現存せず。東が丘一丁目33付近。芳窪街かど公園、河合庭園。

芳窪橋（よしくぼばし）・・・現存せず。東が丘一丁目32-9付近。東根公園。

下芳窪橋（しもよしくぼばし）・・・現存せず。東が丘一丁目付近

東根橋（ひがしねばし）・・・現存せず。東が丘一丁目付近

下原橋（しもはらばし）・・・現存せず。東が丘一丁目付近

上ノ橋（うえのはし）・・・現存せず。東が丘一丁目、柿の木坂三丁目7付近。柿の木坂通

曾根橋（そねばし）・・・現存せず。東が丘一丁目、柿の木坂三丁目付近

緑橋（みどりばし）・・・現存せず。柿の木坂三丁目付近

栄橋（さかえばし）・・・現存せず。 東が丘一丁目、柿の木坂二丁目付近。 駒沢通り。
 とき川橋（ときかわばし）・・・現存せず。 柿の木坂二丁目 9・11 付近
 中丸橋（なかまるはし）・・・現存せず。 柿の木坂二丁目付近。 石碑あり。
 谷戸橋（やとはし）・・・現存せず。 柿の木坂二丁目付近
 末広橋（すえひろばし）・・・現存せず。 柿の木坂一丁目付近
 中ノ橋（なかのはし）・・・現存せず。 柿の木坂二丁目・一丁目付近
 泉橋（いずみはし）・・・現存せず。 柿の木坂一丁目 21 付近
 みとせ橋（みとせはし）・・・現存せず。 柿の木坂一丁目付近
 天神橋（てんじんばし）・・・現存せず。 柿の木坂一丁目付近。 北野神社・常円寺・東光寺。
 下通橋（しもどおりばし）・・・現存せず。 柿の木坂一丁目付近
 品川橋（しながわばし）・・・現存せず。

※ 柿の木坂支流緑道に 【クイズ木の漢字、木の感じ 一木一草 木々を楽しむ みどりの散歩道】
 という案内板が次のようにあります。 クイズをやりながら植物に興味をもってもらうよう工夫
 しています。

緑道にある木

①辛夷 ②木瓜 ③姫林檎 …… ⑱紫陽花 ⑲万作 ⑳花水木

その木の名前は何といいますか？ 解答は

①コブシ ②ボケ ③ヒメリンゴ …… ⑱アジサイ ⑲マンサク ⑳ハナミズキ

緑道で見られる草

①蒲公英 ②繁縷 ③母子草 …… ⑨蛇の髭 ⑩芒

その草の名前は何と読みますか？ 解答は

① タンポポ ②ハコベ ③ハハコグサ …… ⑨ジャノヒゲ ⑩ススキ

(5) 九品仏川に架かっていた橋 世田谷区・目黒区編

中丸橋（なかまるはし）・・・等々力五丁目・深沢七丁目、等々力通り。
 台場橋（だいばはし）・・・等々力五丁目
 影谷橋（かげたにばし）・・・等々力五丁目
 山谷橋（さんやばし）・・・等々力五丁目
 中の橋（なかのはし）・・・等々力五丁目
 山下橋（やましたばし）・・・等々力五丁目・六丁目、奥沢七丁目、専浄寺。
 城北橋（じょうほくばし）・・・等々力五丁目・六丁目、奥沢七丁目

八ツ目橋（やつめばし）・・・奥沢七丁目、猫じゃらし公園、八幡中学校。

城向橋（しろむかいばし）・・・自由が丘三丁目 11・奥沢七丁目 52。 右方面 浄真寺 250

m。

鷺橋（さぎばし）・・・自由が丘三丁目・奥沢七丁目、究意寺。

桜橋（さくらばし）・・・自由が丘二・三丁目・奥沢七丁目

鷺谷橋（うぐいすだにばし）・・・自由が丘二丁目・奥沢七丁目。東急大井町線

丑川橋（うしかわばし）・・・奥沢七丁目。 妙光寺。 九品仏川の旧名は「丑川」。

権現橋（ごんげんばし）・・・奥沢七丁目、自由が丘駅。

八幡橋（はちまんばし）・・・奥沢五丁目・奥沢二丁目。奥沢神社。自由通り（都道426

号）。

向下橋（むかいしたばし）・・・奥沢二丁目

谷畑橋（やはたばし）・・・緑が丘二丁目・奥沢二丁目

芦原橋（あしはらばし）・・・緑が丘二丁目・奥沢二丁目。 東急大井町線。

緑丘橋（みどりがおかばし）・・・緑が丘二丁目・奥沢二丁目

沖ノ合橋（おきのあいばし）・・・緑が丘一丁目・奥沢二丁目。 妙真寺。

畑下橋（不明な橋？）・・・奥沢二丁目 田下橋？

不明な橋（ ）・・・奥沢二丁目、東急大井町線。

畑正橋（はたまさばし）・・・奥沢二丁目。 畑下橋？かもしれません。

緑沢橋（みどりさわばし）・・・奥沢二丁目。 東急目黒線。

石丸橋（いしまるばし）・・・緑が丘三丁目・奥沢一丁目

水神橋（すいじんばし）・・・緑が丘三丁目3。九品仏川最後の橋で呑川本流への流入地点。

近隣に緑が丘弁財天・水神塚（橋名の由来？）。 現存せず。

(コラム) 「道々橋」 あれやこれや

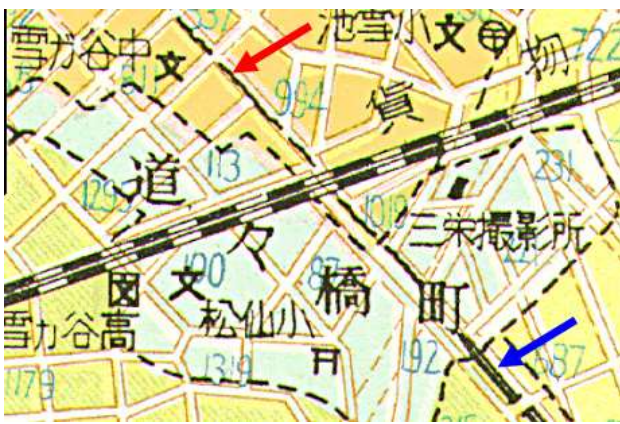


「久が原一丁目」と「仲池上一丁目」を結ぶ「道々橋」は、ひらがなで書かれた「橋名板」には「どどばし」とも「どうどうばし」とも表示されています。

(大田区の昔話 HP) 「久が原」から「呑川」方面へは深い森を越えなければならず、道に迷って「どうどう巡り」。それで「どうどうばし」と呼んだんじゃと・・・

(大田区の民話 HP) やっと着いた呑川の橋は「一本橋」・・・お馬さんは怖がって渡れない。そこで「どうどう、どうどう」と励まして渡らせたんじゃと・・・

(池上町史) 「池上」方面から「本村」に来る途中の「道々橋」の修繕費の扱いで紛糾し、「とどのつまり」(どどのつまり) 独立した一村(道々橋村) を作るようになったそうな・・・



「道々橋村」は、その後「道々橋町」になり、1970(昭和 45) 年には仲池上などに編入されました。ここにあるのは 1956(昭和 31) 年の「道々橋町」の地図です。この町を流れる「呑川」を見ると、「道々橋町」に入るまではニョロニョロとした細い流れ(赤矢印)で描かれ、町を出るころには道路巾に近いほどの太い流れ(青矢印)になっています。この付近に来ると「洗足流れ」も合流し、「どうどう」と大きな音がする流れになっていたため「道々橋」と呼んだのかも知れません。

「道々川ガード」と書かれたプレートがありました。「道路にかけられた橋」を「ガード」といいます。

この地域では呑川のことを「道々川」と呼んだのでしよう。その側道に掛けた部分は「ガード」と表現されています。



呑川に架かる橋脚に古く錆びた小さなプレートが付いていました。そこにはなんと「道道川」橋りょうの表示が！この橋は「道道川」に掛けた橋梁であることを明示しているのです。道々橋町の住民が「道々橋村」の一村を起し、その修繕を請け負い、おらが村の川を「道道川」と呼んだ心意気が伝わって来るようです。橋の竣工は 1964(昭和 39) 年の東京オリンピック・新幹線開通の時でした。

